

歌がつなぐ親子と地域の輪



納場保育園長

かや ば よし え
萱場良江さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.224

引越してきた当初、辺りから聴こえてくるカエルの大合唱に驚いたそう。豊かな自然に囲まれ、48年前に創立した納場保育園。この環境の中で子どもたちと過ごせることの素晴らしさを語る、納場保育園長で小美玉市納場地区にお住まいの萱場良江さんにインタビューします。

声が重なり 心つながる

笠間市岩間地区で生まれ育ち、結婚後は松戸市で暮らしていた萱場さん。保育園を始めるきっかけとなったのは、社会貢献に関心の高い父と、教育に携わってきた母の存在でした。まだ「子どもは家庭で育てるべき」が一般的だった約50年前に、父は保育の必要性を感じ、納場地区に保育園を設立。その運営を託されたのが萱場さんでした。

引越してきた当初は知り合いも少なく、寂しさから週に一度は松戸に戻る生活が続いたといえます。しかし、保育園を通して保護者との関わりが生まれ、少しずつ地域に馴染んでいきました。「住んでみるといいところ。地域のつながりが一番大切だと感じるようになりまし

た」と振り返ります。

みの〜れとの関わりは、開館直後の発表会から始まりました。それ以来、森のホールでの発表会を毎年続けています。園内のホールでは限られていた観客も、みの〜れを利用することで多くの人に見てもらえるようになりました。デイサービスの利用者も訪れるなど、地域とのつながりも広がっています。

また、保育所の先生たちが照明卓の操作を学びながら舞台づくりに関わるなど、発表会の質も年々高まっています。

納場保育園の発表会の特徴の一つが、年長児と保護者による親子コーラスです。大人になると親子で歌う機会は少なくなることから、「一緒に楽しむ時間をつくりたい」と始まりました。発表会が近づくと、親子で練習に訪れる姿も見られます。当初は母親の参加が中心

でしたが、近年父親の参加も多くなり、100名規模の合唱に。混声になることで歌に厚みが生まれ、涙ながらに歌う保護者の姿も見られるといえます。萱場さんは「子どもへの思いは、いつまでも変わらないのですね」と穏やかに語ります。

「今では父がこの土地を選んできたことに感謝しています」と萱場さん。自然の中で過ごす幼少期の体験は、その後の人生にも生きてくるもの。「人と人とのつながりが大切。そのことを子どもたちにも伝えていきたいですね」と笑顔で話してくださいました。

2年後には創立50周年を迎える納場保育園。親子揃って卒園生という家族も多くなってきたそう。地域にとってますます欠かせない存在になっていく納場保育園の未来が楽しみです。

(藤田佐知子)